

たろばな 京都大学男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

「女子高生・車座フォーラム2018」を12月22日(土)に開催

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらうため「女子高生・車座フォーラム2018 知ろう、語ろう、京都大学。」を企画しています。

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのか、などなど、さまざまな疑問に教員や学生がお答えします。

興味のある方は、右記センターホームページをご覧ください。

今年度のポスターは次のとおりです。

女子高生と保護者に響く、親しみやすいPOPな感じになっています。

日時 2018年12月22日(土) 10時~16時
会場 京都大学国際科学イノベーション棟、他
参加費 無料
募集定員 女子高校生 100名程度(先着順)
保護者 50名程度
申込方法 男女共同参画推進センターホームページより
<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>
申込期間 2018年9月25日(火)~11月22日(木)

知ろう! 語ろう!
京都大学!

受験の前に京大の教育・研究を知り、
研究者や大学院生・学部学生と
あんな輪になって話しに来ませんか?

京都大学の
受験を目指す
女子高生の
みなさまへ

参加
無料

女子高生のための

KURUMAZA
車座
FORUM
2018

12/22 [SAT] 10:00-16:00

京都大学国際科学イノベーション棟
シンポジウムホール、他

募集定員
女子高校生100名程度(先着順)
保護者50名程度

主催/京都大学男女共同参画推進センター
共催/京都大学教育推進・学生支援部入試企画課

申込方法
男女共同参画推進センター
ホームページをご覧ください、
申込んでください。
<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

申込期間 9.25[火]-11.22[木]

〒606-8523 京都府京都市左京区豊前京大町
mail: web@info@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
tel: 075-753-2437

知ろう! 語ろう!
京都大学!

KURUMAZA
車座
FORUM
2018

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や
研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなもの
があるのか、などなど、色々な疑問をお持ちのみなさん、京都
大学の企画する「女子高生・車座フォーラム2018」にいらっ
しゃいませんか? 京都大学男女共同参画推進センターでは
、京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらうと
「京都大学を知ろう・研究者と語ろう」を企画しました。フォー
ラムでは、理系・文系それぞれにどんな研究分野や領域がある
のか、なぜ今の分野を選んだのかといった大学進学に関わる
話をはじめ、研究の面白さや苦労、専門職や研究職など大学
卒業後の将来設計のための心得、あるいはまた、具体的に、
たとえば子育てと研究生生活の両立方法、研究論文の執筆や
学会発表といった研究者の仕事内容など、さまざまなテーマに
ついて、教員や大学院生、学生が疑問にお答えします。保護
者の方々の参加も募集します。どうぞ奮ってご参加ください。

当日の
流れを
チェック!

PROGRAM [プログラム]

10:00~10:30	受付
10:30~10:35	開会の挨拶
10:35~10:55	京都大学の紹介
10:55~11:10	入試に関する説明
11:10~11:30	女性研究者の講演
11:30~13:00	昼休憩 ※昼食は各自持参 ※学生食堂の利用可
13:00~13:40	講師紹介・グループワークの説明・移動
13:40~15:00	グループワーク「車座になって語ろう」 ※質疑 講師・京大生とのグループワーク ※昼食 京大生との交流[13:30~15:00]
15:00~15:10	移動(休憩)
15:10~15:50	まとめ
15:50~16:00	閉会

閉会后17:00まで、入試に関する質疑応答を受け付けます。

グループワーク
希望学部

- 文学部
- 教育学部
- 法学部
- 経済学部
- 理学部
- 医学部(医学)
- 医学部(人間健康科学)
- 薬学部
- 工学部
- 農学部
- 総合人間学部(文系)
- 総合人間学部(理系)

日経ウーマノミクスプロジェクト 「女性研究者キャリアカフェ」 in 京都大学

5月17日（木）京都大学百周年時計台記念館会議室において日経ウーマノミクスプロジェクト「女性研究者キャリアカフェ」 in 京都大学が開催されました。このプロジェクトは数少ない女性研究者のネットワークづくりを目的としており、女性研究者が日々感じている疑問や課題を語り合うことを目的とし、関西の大学キャンパス等を会場に行っています。第1回目は本学で行われ、稲葉 カヨ男女共同参画担当理事・副学長より開会の挨拶があり、引き続き株式会社島津製作所の松谷 恵利氏からキャリアパスについての講演が行われました。学生、社会人など21名の参加があり、参加者からは「講演者の方をロールモデルとして知ることができ、学生や女性研究者の方にとって大変有意義な機会になったと思います」「これからの自分のキャリアパスを考えるにあたり会社とプライベートの話について、普段なかなか

か聞くことができないことを聞いて良かった」などの感想がよせられ、盛況のうちに終了しました。

<http://www.nikkei-ad.co.jp/ccafe/index.html>



ILAS セミナー「ジェンダーとセクシュアリティ」開講

平成30年度のILASセミナー「ジェンダーとセクシュアリティ」が4月から開講しました。講師3名でのリレー講義を行い、第1回目は田中 雅一人文学研究所教授よりジェンダーとセクシュアリティについての概論をテーマに、活発な意見交換が行われました。続いて粟屋 智就医学研究科特定助教より医学の視点から、山

内 淳生態学研究センター教授より生物進化から考えるとして講義が行われています。

日程：4月9日（月）～7月17日（火）

時間：毎週月曜日 5限（16：00～18：30）

場所：男女共同参画推進センター会議室



出前講義 京都教育大学附属高等学校

5月15日（火）京都教育大学附属高等学校において、薬学研究科伊藤 美千穂准教授が「薬と植物の関わり」をテーマに特別講義を行いました。講義では漢方の原料となる植物を触ったり、味を試したり生徒たちにとって貴重な体験となりました。



京都大学大学院薬学研究科・薬学部 <http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>

男女共同参画推進センターでは、子育てと仕事や研究の両立支援を目的とした様々な取り組みを行っています。詳細、利用方法については、センターホームページをご覧ください。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>

平成30年度保育園入園待機 乳児保育室「ゆりかご」開室

学生、研究者の学業、研究と育児の両立を支援することを目的とし、「保育園入園待機乳児のための保育施設」（愛称ゆりかご）を設けています。この保育施設は、自治体に保育園入園申請をおこなったが、入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象としています。今年は4月4日から開室しています。

現時点で定員に迫るたくさんの申し込みをいただいています。



おむかえ保育

「急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない……」などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を民間企業に運営委託しています。保護者に代わり、センターが委託している企業から派遣された保育者（シッター）が子どもを保育機関などに迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時的保育を行うものです。

今年度は利用料金が改定されています。

病児保育室「こもも」

病児保育室「こもも」は、京都大学教職員・学生の子どもが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。京都大学病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行っています。

ベビーシッター利用育児支援

男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッター事業者が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

今年度より対象者の変更があり昨年度は「配偶者が就労している場合の他、配偶者の入院、通院等により、サービスを使わなければ就労すること（職場への復帰を含む）が困難な状況にあること。」でしたが、今年度からは、「配偶者の就労、病気療養、求職活動、就学、職業訓練等、又はひとり親家庭であることにより、サービスを使わなければ就労すること（職場への復帰を含む）が困難な状況にあること。」となりました。

平成30年度第2期研究・実験 補助者雇用制度の利用者募集

平成30年度第2期研究・実験補助者雇用制度の利用者を募集しました。育児又は介護のために十分な研究・実験時間が確保できない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を助成します。本事業は、女性研究者に限らず、育児・介護等に携わる男性研究者も対象となります。今回の募集について、実験補助者の雇用期間は平成30年10月1日から平成31年3月末までです。

お問い合わせ先：総務部人事課職員掛
(g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

連載：研究者になる！－第65回－

医学部附属病院 麻酔科・助教 加藤 果林

●思い描いた将来は医師かバレリーナ

私が中学生の頃まで選択肢として考えていた職業は、医師かバレリーナでした。昔の私は体が弱く、長期間学校を休んだり、体育の組体操やマラソン大会に参加できなかったり……。病院にかかることが多い子どもでした。それに加え、京大の事務員を務めながら家事もこなす母に、家庭をもつ女性が働くことの大変さを聞かされ「ならば確実な資格をとろう。それなら医師だ」と。小学2年生の時には、漠然とそう考えていたように思います。

一方で、その頃から双子の姉妹の影響でバレエを習い始めました。体を動かすことも好きだったんです。そのうちバレエだけでなく、ジャズダンスやエアロビクスなどあらゆるダンスを習いました。とにかく踊ることが好きで、バレリーナになるという将来像を思い描くのも自然なことでした。しかし中学生の時、進路相談で「長く続けられる職業の方がいいのでは」と言われ、第一線で活躍し続けられる医学の道に進むことを決めました。

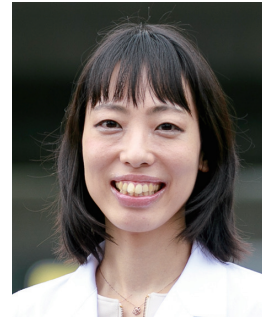


●研修先で見つけた運命の進路

京大医学部に進学するのは、今も昔も変わらず男子が8割・女子が2割。男子は灘や東大寺などの進学校がありますが、女子は高校の段階でそこまでの教育を受けられるところが少なく、高校受験の際は進路を決めるのにすごく悩みました。結局、選んだのは通学時間が短く勉強に支障が出ない京都の公立高校。週5日でバレエを続けながら、当時はペンを握る指の皮がめくれるほど勉強しました。大学時代は社交ダンスサークルに入って、ショーのダンサーをしたり某劇団のオーディションを受けたり。医学部の勉強は大変でしたが、そういったことができるのも最後の機会だと思い、いろいろと挑戦していました。

そしてやがて迎えた臨床研修。私たちの時代から、臨床研修期間に複数の科を経験するスーパーローテーション方式が導入され、マッチング制度によって研修先を自由に選べるようになりました。決まった研修先は西神戸医療センター。ここで私は、麻酔についてなら何時間でも話せる！というほど、麻酔科のやりがいに目覚めました。

麻酔科の業務は大別して、手術室での麻酔、重篤患者の呼吸・循環などを保つICU、痛みを取り除くペインクリニックの三つです。手術時には知識と技術と薬剤を駆使して片肺だけを換気したり、一部の神経をブロックしたり、全身麻酔だけでなく下半身麻酔を施行したりします。また緊急時には手術室の司令塔としてチームをまとめます。いつどの科に呼ばれるかわからない上、呼吸のこと、循環のこと、脳神経のこと、薬剤のこと……全部を理解していないとできない。麻酔科医は、職人であり救命のスペシャリストだと思いました。



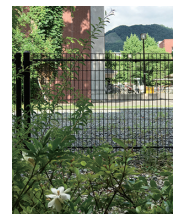
●麻酔科医の現状と女性の働き方

そんな大好きな麻酔科なのですが、慢性的に人手不足なのが実情です。その要因は科としての歴史が浅く認知度が低いこと。手術室外での鎮静依頼を受けるなど多方面でニーズが高まったこと。そして高齢化社会を迎え、3人に1人が悪性腫瘍を患う今、治療の第一選択である手術の数が増加していることなどでしょうか。医学系大学の柱は教育・研究・臨床。私の研究テーマは周術期における感染症制御なのですが、臨床や子育てで限られた時間しかない今、できることを常に心がけています。その一つが「手指衛生の声かけリーダー」。周術時の手指衛生を徹底するという簡単なことで、感染症のリスクは大幅に下がるということを示したいと思っています。

麻酔科は比較的女性の比率が高い科です。オンオフがはっきりしているのも、9時5時で帰ることもできるし、扱う薬剤がシンプルなので、病院が変わっても働きやすい一方で、専門医制度が厳しいため長期の産休育休をとることが難しく、人手不足のため小さな子どもがいても当直を望まれることもあります。手指衛生の声かけ運動のように、今後、少しずつ意識を変えていきたいですね。

編集後記

センターの会議室から医学部構内を望んだものです。奥に小さく大文字が見えるでしょうか。大文字の送り火の日、大学は休みですが、結構特等席かもしれません！



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>